

H30第1回中央区まちづくり懇話会実施報告

実施日 平成30年8月10日 10:30~12:00

場 所 熊本市役所本庁舎14階大ホール

参加者 懇話会委員15名

中央区管内の大学に通う学生 18名

内 容 ◆黒髪校区自治協議会の事例発表

◆まちづくり推進事業報告

◆意見交換

「おたがいさまで ささえ合う

地域づくりについて」



次第

1 開会



2 事例発表

黒髪校区自治協議会
の事例発表



H30. 8.10. Fri.
AM 10:30~12:00



第1回 まちづくり懇話会

@熊本市役所 14F大ホール



3 意見交換会

テーマ「おたがいさまで
させ合う地域づくり」

i) 自己紹介

ii) 意見交換

Q1) 今まで
どんな地域活動をしたことがありますか?

Q2) 地域活動に若い人を増やすための工夫

iii) まとめ

4 閉会



MEMBER

- * 中央区まちづくり懇話会委員
- * 熊本大学 伊藤ゼミ
- * 熊本学園大学
- * 尚絅大学

RSTUVWXYZ

中央区のまちづくりのヒントになる
声をあつめる会です

みなさんのお話しを聞かせてください。
いろんな方が話しやすい

楽しい雰囲気づくりにご協力をお願いします。



懇話会の様子



中央区まちづくり懇話会 古賀会長



黒髪校区自治協議会 秋山会長の事例発表



意見交換会の様子



意見交換会の様子

懇話会の様子



意見交換会の様子



意見交換会の様子



意見交換会の様子



意見交換会の様子

懇話会の様子



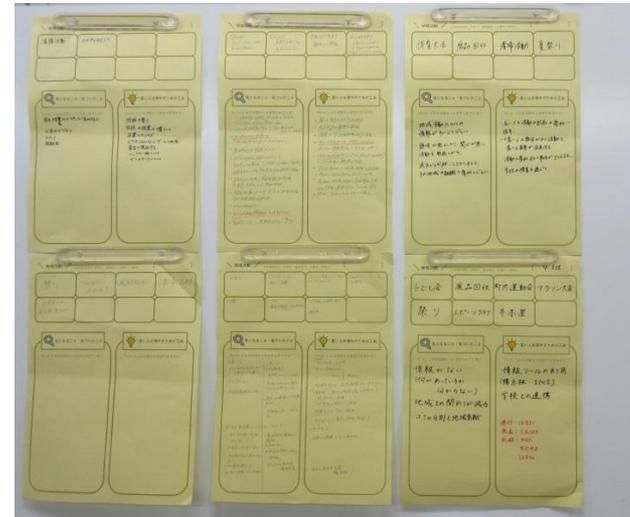
発表の様子



全体の様子



石櫃中央区長感想



グループごとのまとめ

黒髪校区の取り組み事例発表

平成30年度 第1回中央区まちづくり懇話会 事例発表

FUTURE

昔からの黒髪 これからの黒髪 くか るみ

黒髪校区自治協議会
黒髪校区第15町内自治会

会長 秋山 高宏 (あきやま たかひろ)

PAST

くか るみ 次世代へつなぐ事業

FUTURE

✎ 自治協議会としての新規事業

□ 坪井川遊水地の会の取り組み

黒髪、壺川、清水、高平台校区の4校区での協働での取り組みを実施
坪井川遊水地一体を桜の名所とすべく桜の植樹活動を開始します。
次世代に引き継ぐ桜並木を私たちの手で守り育てていきます。



くか るみ 地域団体のこれまで

❓ 自治会長は“何をすれば良いか？”

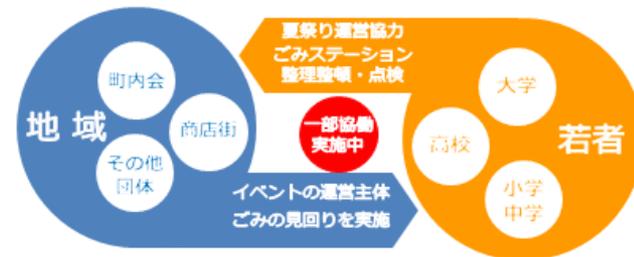
- 町内の
とりまとめ 各団体の苦勞は、町内の苦勞として共有する！
(ex) 校区体育祭やふれあい夏祭りなどでそれぞれで行っていた
広報などを連携して実施
- 行政
取次 町内毎の問題点は速やかに関連窓口につなぐ！
(ex) 町内の問題点を集約し、行政への窓口を極力一本化
- 団体間
の調整 高齢化や人手不足で負担が増えている現状
→相互に助け合い、協力する体制づくり
- 安全
安心 各団体の情報を素早く校区内、関連団体で共有
(ex) 小学校によせられた不審者情報などを交通安全協会や
見守り団体で共有し、防犯力を強化

✎ **町内・校区全体の視点**を持って取り組みを実施

くか るみ これからの黒髪

FUTURE

若者（学校）と協働した“まちづくり”



熊本地震の際も、若者（学生）の力を実感しました。
地域力の向上に“若者”は欠かせないものと思います。
なんとか協力・協働の体制を築いていきたいと考えます。

テーマ 「おたがいさまでささえ合う地域づくり」 ～地域の担い手不足～

懇話会委員の声

- ◆ イベント運営に若い人にも入ってもらいたい。人手不足。担い手不足。
- ◆ 特に若い人に手伝ってもらえると助かる。
- ◆ 大学生に声をかけるのに、どこに声をかけるとよいのかやり方がわからないため、結局声かけをやっていない。顔見知りだったらお願いがしやすい。
- ◆ 広くチラシを配っても人は集まらない。
- ◆ 活動を知らない人もいるが、回覧板は自治会から住民へ情報提供をした証拠になる。
- ◆ 大人はプライドが高いため、新しいヒトやモノを受け入れる体制が整っていない。
- ◆ 柔軟性の観点からすると、自治会よりも、構成団体の方が改革志向。
- ◆ 地域の会議は回数が多く、時間も拘束されるため、仕事をしている人や学生には難しいのか？
- ◆ 自治会が住民のためにやっている活動の気づかれていない部分を知ってほしい。

テーマ 「おたがいさまでささえ合う地域づくり」 ～地域の担い手不足～

大学生の声

- ◆ 最初の地域活動への参加は強制的なほうがよい。授業の一環・カリキュラムであれば参加するのではないか。参加してみて興味がわけば、継続して参加する人も出てくる。参加してみて知った楽しさ・よさを伝えていく。
- ◆ 自分たちのような若い世代が求められていることを知らなかった。
- ◆ そもそも、地域活動の募集をしている事も知らなかった。この会で初めて知った。
- ◆ 地域活動は、年配の方がやっているという印象が強く入っていきづらい。
- ◆ 正直、自分たちがわざわざ出ていかなくとも問題ないと思っていた。
- ◆ どういうときに自分たちが手伝えるのか情報が無くわからない。
- ◆ 自分の周りに、行政や地域のSNS (FB/LINE/Twitter) を見ている人は、ほぼいない。
- ◆ 学生はSNSを使い分けている。イベントなど人を集めたいときは「フェイスブック」や「ツイッター」がよい。リツイートやコメントができるため、自分が興味のあることを、興味がありそうな仲間に情報発信できる。学生は一人で参加することには抵抗感があるため、興味がありそうな仲間と情報を共有することで、話しの種になり一緒に参加ということにもなる。ラインは、災害時など一方的に情報を収集したいときに活用している。
- ◆ 時間を拘束されるため、その時間を時給で換算すると、バイトに出た方が得だと考える。
- ◆ 興味が無かったり、関心がないと敬遠しがち。

テーマ「おたがいさまでささえ合う地域づくり」 ～地域の担い手不足～

地域活動に若い人を増やすための工夫

- ◆ 大学の単位がもらえたり、就職活動に有利になるシステムがあれば参加する。
- ◆ イベントについてアイデアを出すなど、一緒に作りあげることについては、関心がある人も多いと思う。
- ◆ 若い人の興味がわく活動を、若い人が企画する。
- ◆ 地域活動に参加するにはメリットが必要。同じ時間を費やすのであれば、バイトでお金を稼ぎたい。同じ時給が出れば、人のために役立つ地域活動をしたい。
- ◆ サークル活動として参加を求める。
- ◆ 大学の専門分野の活用する。 栄養 ⇒ お祭りでのお菓子の作成販売など
教育 ⇒ 子供たちとの交流
- ◆ 企業との連携でビジネス化。
- ◆ 地域のお祭りには、若者向けのテナントを。
- ◆ 見やすい情報発信を。(大学の掲示板・SNSなど)

意見交換会まとめ(古賀会長)

キーワードは「情報発信の方法」と「教育現場との連携」。
昨年度、この懇話会の中でも話が出た、LINEの活用が始まっている。情報発信のやり方については、この懇話会でも継続して取り組んでいきたい。教育現場との連携については、小学生の頃から継続して取り組む必要がある。担い手の育成については、育むことが大切。